

研究集会 18K-06

「使える地震予測を目指して-最近 10 年間の地震予知研究における成果と展望-

プログラム

6月8日

10:00 10:10 小泉尚嗣 はじめに：この研究会の狙い

10:40 山岡耕春 地震予知研究とアスペリティ・モデル

11:10 澤田純男 アスペリティモデルと強震動予測

11:35 山中佳子 地震波形解析から見たアスペリティ

12:00 吉田慎吾 摩擦構成則とアスペリティ

昼休み

13:10 13:35 岡田知己 地殻構造からみたアスペリティ

13:10 14:00 大志万直人 比抵抗構造からみたアスペリティ

14:00 14:25 橋本 学 GPS観測から見たアスペリティ

14:25 14:50 奥村晃史 活断層評価、固有地震、アスペリティ

14:50 15:20 小原一成 プレート境界すべりの挙動の違いと摩擦構成則

15:20 16:00 内田直希 アスペリティ・相似地震・相似地震によるプレート運動  
モニタリング

16:00 16:25 吉田康宏 プレート固着域（アスペリティ）の状態変化を監視する。

16:25 16:50 堀 高峯 東海・東南海・南海地震予測シミュレーションとアスペ  
リティモデル

16:50 17:20 交渉中 地震予知研究と強震動予測

17:20 17:50 交渉中 地震予知研究に望むこと

6月9日

09:30 09:55 小笠原宏 震源の近傍で観測する：南アフリカ鉱山でのこころみ

09:55 10:20 勝俣 啓 地震活動度変化とアスペリティモデルによる解釈

10:20 10:45 飯尾能久 内陸地震新モデル

10:45 11:00 小泉尚嗣 プレスリップを地下水観測で検出する

11:00 11:15 長尾年恭 電磁気観測による地震予知戦略

11:15 11:40 交渉中 震災軽減における理学の役割と工学の役割

11:40 12:00 川崎一朗 まとめ